

ユビキタス

JJ1SXA 池

Ubiquitous = 同時遍在 (英語辞書による)、ユビキタス = 時空自在 (言い換え) えっ?、ん…? となったのは、私だけかな? (そうだとすると恥ずかしいことだ!)

外来語の分かりやすい言い換えを検討している、国立国語研究所が 4 月に発表した第 1 回分の 62 語に次いで、第 2 回分の中間発表分として 8 月に公表した 52 語の中 (11 月の最終発表では 47 語になり、第 3 回分予定の 60 語も公表されました) にあり、良く聞く言葉ですが、概念的に分かっている程度で、本当の意味は良く知りませんでした、ということで、「同時遍在」って何だ? 「時空自在」って何だ? となってしまいました、皆様は如何ですか?

Ubiquitous は、元々は「どこにでもある = 遍在」という意味のラテン語 (宗教用語) で、「神はあらゆるところに現れる」というような使われ方をしたらしいです。

ユビキタス社会は、「あらゆる物がコンピューターにつながり、情報が行き交う社会」というような意味で、ユビキタスを使うようですが、そう遠くない将来に実現するであろう、そんなユビキタス社会は、「超便利社会」なのか、「超管理社会」なのか、見解は分かれそうです、推進者の一人である、東大教授の坂村健氏 (トロンの開発で有名) は、「技術開発は急ぎ、社会への適合はゆっくりと」との意見を述べています。

国立国語研究所が、このように言い換えを考えた外来語は、官公庁が作成する白書に記載されているカタカナ言葉のうちから選んだもので、高齢者にも分かるような言葉に言い換える必要があるということで、漢字やひらがなの表記に置き換えたものだと思いますが、「何で官公庁が、こんなにカタカナ言葉を使うようになってしまったのだろう、外国語に対する適切な訳語が見つからない場合もあるでしょうが、それならば、外国語に頼らずに、最初から日本語で表現できる言葉を使えば良いでは無いかと思うのは、外国語に弱い私の僻みだろうか?」と思っていたら、朝日新聞論説委員室の池見哲司氏が、以下のような明快な意見を述べていました。

…明治初期、西洋文明を採り入れるうで、知識人が苦心したのは言葉だった。

哲学や科学などの学術的な概念を表す日本語がなく、やむなく漢字を組み合わせて、新しい言葉をつくり出した。…

(中略)

…世界共通の表記が必要度を増しているにしても、漢字文化圏のわれわれがこれほどアルファベットに依存する必要があるだろうか。

コンピューターを電腦、エレベーターを電梯と書く中国は賢い。… (後略)

現代の官公庁のお役人さん (ばかりには限りませんが) は、明治の知識人に見習い、同時に明治の人の気骨の一部でも身につけてもらいたいものです。

ユビキタス 2 (略字表記)

前段の「ユビキタス」で外来語のことを書きましたが、外来語以上にわかりにくいのが、アルファベットを並べただけの略字表記です。

略字表記の殆どは英語の頭文字なので、英語が堪能な人は別にして、日本人にはなかなか元の意味がわかりにくいですね。

明治初期、新しい言葉を発案し、作り出したのは、津和野藩(島根県)出身の西周(ニシ・アマネ)という人が中心だったようですが、略字表記についてうまい言い表し方をしてくれる、現代の西周はいないでしょうか？

東京ディズニーランドはTDL、大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンはUSJ、長崎のハウステンボスはHTBなどは、ごく一般的に使っているようですし、NGO(非政府組織)、PKO(国連平和維持活動)なども、新聞紙上には、良く出てきます、またBSE(牛海綿脳症)も良く出ていましたね。

CPUや、LANはわかるにしても、最近良く使われだした、CEO(最高経営責任者)は良いにしても、POS(販売時点情報管理)、SDI(戦略防衛構想)、TOB(株式公開買い付け)になると、なんだっけ?となってしまいます。

幸いにも?私の場合は、無線用語や、パソコン用語は、正確に意味がわからないにしても、他のものとの区別が付き易いですが、無線やパソコンに関係ない高年齢者にとっては、意味不明の言葉が余りにも多く氾濫していることでしょうね。

最近の日本語の乱れについて、若者の特殊なアクセントや、言葉使いには結構煩い事を言う人達でも、カタカナ言葉は平気で使って意見を述べているようです。

カタカナ言葉は少し遠慮してと言っても、スポーツ用語を全て日本語に言い替えたなら、これもおかしいことになってしまいそうです。

ベースボールよりも野球の方が響きが良いし、ヒットを安打というのは違和感がありますが、その昔、敵国のスポーツということで、ストライクやボールその他全ての野球用語を日本語で言わなければいけなかった時代もあったようですが、今そんなことをしたら、余計頭がおかしくなりますね。

外来語にしても、略字表記にしても、できるだけ日本語で表せるものは、日本語の表記でお願いしたいものですが、ハムの言葉も一般的には難解でしょうね。

無線でもおかしい日本語がまかり通ってはいます、色々意見もあり、そのことに関する本も出版されていますので、私などの口をはさむところではありませんが、一例をあげると、自分が話をしているのに、「そんなことを言っています」とか、名前の紹介で、「漢字解釈は」などと言いますが、「漢字解釈は」と言わず、「漢字は」と言えば事足りると思いますが?…慣例になったハム用語でしょうね、せいぜい日本語を乱さないように気をつけながら、現代社会に融和していけるようにしたいものです。